

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナ医療ひっ迫注意報・警報の新設について（資料1 P 1～ 17）

新型コロナウイルス感染症の医療体制については、令和6年4月から確保病床によらない通常の医療体制に移行している。

この度、広島県は、感染拡大時における医療提供体制を確保するため、早期に、県民への注意喚起や医療機関等への呼びかけを行うことが重要であると判断し、過去の流行や医療への負荷状況を踏まえた「新型コロナ医療ひっ迫注意報・警報」を独自に新設した。

注意報・警報の基準は、過去最大の入院患者数や重症病床の使用率等を参考に、感染症発生動向調査における定点医療機関からの報告患者数や広島県新型コロナウイルス感染症版 J-SPEED※（以下「J-SPEED」という。）から得られる中等症以上の入院患者数としている。

※ 広島大学によって開発されたサーベイランスシステムで、J-SPEED 報告協力医療機関から報告された入院患者の重症度、治療内容、転帰等のデータを収集・分析するもの。

区分		基準
注意報	発令	いずれかの保健所管内で <u>定点当たり報告患者数が8人以上</u>
	解除	全ての保健所管内で定点当たり報告患者数が8人未満
警報	発令	いずれかの保健所管内で <u>定点当たり報告患者数が13人以上</u> 又は <u>1医療機関当たり J-SPEED 中等症以上の入院患者数が4以上</u>
	解除	いずれかの保健所管内で定点当たり報告患者数が8人未満 又は 1医療機関当たり J-SPEED 中等症以上の入院患者数が2未満

注意報・警報発令時は、県民に対し、手洗い、換気、マスク着用などの基本的な感染対策や不要不急の外出を控えるよう注意喚起されるとともに、医療機関等へは、受入れ体制や継続診療について注意喚起される。

また、7月11日、令和6年第27週（7月1日から7月7日）の定点医療機関からの患者報告数が、呉市保健所管内で注意報開始基準値（定点医療機関当たり8）を上回ったため、「新型コロナ医療ひっ迫注意報」が発令された。全国においても増加傾向で推移しているため、本市においては、市民に対し、引き続きホームページ等で感染予防対策の周知徹底を行うこととする。

（委員意見）

- ・ 医療機関を受診する新型コロナウイルス感染症患者は増加しており、市民に対し、ホームページ以外でも注意喚起してほしい。

(2) 本市における手足口病の流行状況について（資料1 P 18～ 21）

6月13日、広島県は、令和6年第23週（6月3日から6月9日）の定点医療機関からの患者報告数が本市保健所管内で警報開始基準値（定点医療機関当たり5）を上回ったため、「手足口病警報」を発令した。発令後も本市保健所管内医療機関からの患者報告数は増加し、令和6年第27週（7月1日から7月7日）時点の定点医療機関当たりの患者報告数は25.82となるなど、過去20年で最多の報告数となっている。

手足口病は、口の中や手足などに水疱性の発疹が出るウイルス感染によって起こる感染症であり、本市の2024年患者報告数の9割以上が5歳以下を占めている。また、一般的には数日間で治癒する感染症であるが、まれに急性髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症や心筋炎などを引き起こすことがあるとされている。

主な感染経路は飛沫感染、糞口感染、接触感染等であるため、手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなどの感染予防策を講じることが重要である。特に、乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは集団感染が起こりやすい。

主に夏季に流行のピークがみられるため、引き続き発生動向に注視する必要がある。

(委員意見)

- ・ 手足口病による重症例は少ないが、今後の発生動向に注視する必要がある。

(3) 令和5年における本市の予防接種実施状況について（資料1 P 22～ 29）

令和5年度における本市の予防接種実施状況を取りまとめた。

麻疹・風しんワクチン接種率は、1期が93.8%、2期が92.8%といずれも国の指針で示されている接種目標（95%）を下回った。

一方、子宮頸がん予防ワクチンについては、昨年度と比較して1回目接種の接種率が上昇した（46.3%→69.4%）。また、キャッチアップ接種の対象者である平成9年4月2日～平成20年4月1日までに生まれた女性64,440人のうち、これまでに1回以上当該ワクチンを接種したことがある者は12,589人であり、接種率は19.5%であった（令和6年6月24日時点）。

今年度については、キャッチアップ接種の対象者のうち接種が完了していない者に対して、接種勧奨に関するお知らせを個別送付するとともに、広報紙「市民と市政」（6月15日号）において、3回の接種を完了するためには、今年の夏までに接種を開始する必要がある旨を広報した。また、新たにWeb広告や大学、専門学校、医療機関、薬局等へポスター及びリーフレットを送付し、普及啓発を実施している。

本市としては、今後も様々な機会を捉えて、引き続き予防接種に関する制度の周知及び接種勧奨に努めていく。

(委員意見)

- ・ 子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨については、がん予防効果等のデータも活用してほしい。

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病 名	令和6年6月分	令和6年7月分
		報告日 6/3～6/30	報告日 7/1～7/11 現在
2類	結核	17 人 (結核 14 人, 潜在性結核 3 人)	3 人 (結核 2 人, 潜在性結核 1 人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	3 人(1 人(6/3), 1 人(6/11), 1 人(6/25))	
4類	E 型肝炎	1 人(6/11)	
	デング熱		1 人(7/1)
	レジオネラ症	1 人(6/12)	3 人(2 人(7/8), 1 人(7/9))
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1 人(6/17)	1 人(7/10)
	急性脳炎	1 人(6/28)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 人(2 人(6/3), 1 人(6/21))	
	後天性免疫不全症候群	2 人(1 人(6/10), 1 人(6/24))	2 人(7/2)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2 人(7/10)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人(6/28)	
	梅毒	18 人(1 人(6/3), 2 人(6/4), 1 人(6/6), 1 人(6/7), 2 人(6/8), 3 人(6/11), 1 人(6/14), 2 人(6/17), 1 人(6/19), 1 人(6/24), 2 人(6/28), 1 人(6/29))	9 人(1 人(7/1), 2 人(7/2), 4 人(7/4), 1 人(7/5), 1 人(7/11))
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 人(6/24)	1 人(7/11)
	百日咳	1 人(6/14)	1 人(7/3)

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和6年9月17日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は2,516人で、前月比1.53と増加した。

手足口病、ヘルパンギーナは大きく増加、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は増加、咽頭結膜熱、突発性発しんはやや増加、感染性胃腸炎はほぼ横ばい、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎はやや減少、水痘は減少した。

(2) 特記事項

- 手足口病は、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症である。4月下旬から増加が続き、第27週（7月1日～7日）には過去20年間で最多となる定点当たり25.82人の報告があった（図1）。回復して症状がなくなった後も2～4週間程度、便にウイルスが排出されるため、手洗いの励行、排泄物の適切な処理などの感染予防対策が重要である。
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、ゴールデンウィーク以降増加しており、第27週に定点当たり5.57人の報告があった（図2）。また、高齢者施設や医療施設から集団発生の報告が続いている。手洗い、換気、高齢者施設や医療機関でのマスク着用など、基本的な感染予防対策が重要である。

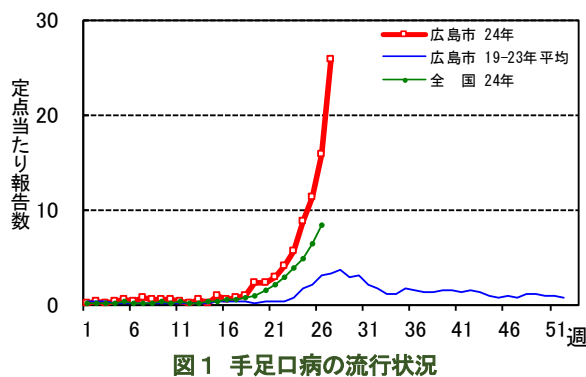


図1 手足口病の流行状況

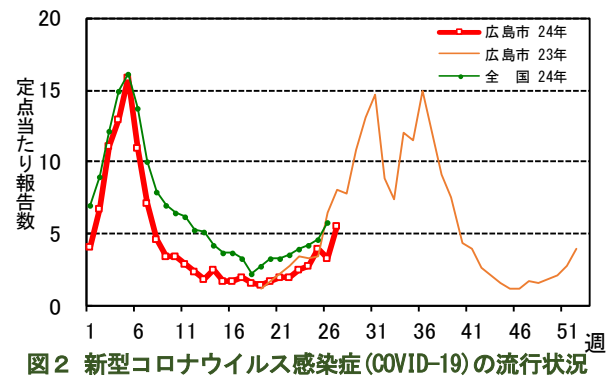


図2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況

- ヘルパンギーナは6月上旬から増加しており、第27週に定点当たり1.68人の報告があった。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。
- 咽頭結膜熱は多い状況が続いており、第27週に定点当たり0.82人の報告があった。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。
- マイコプラズマ肺炎は増加傾向であり、第27週に定点当たり0.71人の報告があった。全国でも増加傾向となっており注意が必要である。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の今年の累計報告数は、7月7日時点で15件となった。過去最多の年間報告数10件（2019年）の1.5倍となっており、非常に多い状況である。

(3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核17件（患者：14件、潜在性結核：3件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、急性脳炎 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件、後天性免疫不全症候群 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 16件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件、百日咳 1件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)・・・【流行始まり】

RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナ・・・【流行中】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
COVID-19	新型コロナウイルス(2019-nCoV)	2024年5月	1人
手足口病	コクサッキーウイルスA6型	2024年4月	1人
突発性発しん	ヒトヘルペスウイルス6型	2024年5月	1人
	ライノウイルス	2024年5月	1人
その他の呼吸器疾患(気管支炎)	*RSウイルス	2024年5月	1人
	*ライノウイルス		
その他の疾患(川崎病)	アデノウイルス1型	2024年5月	1人

*:複数病原体検出例

6人の患者から6種類のウイルス7株が検出された。検出ウイルスの内訳は、ライノウイルス2株、新型コロナウイルス(2019-nCoV)、コクサッキーウイルスA6型、ヒトヘルペスウイルス6型、RSウイルス、アデノウイルス1型各1株であった。

3 感染症法5類全数把握薬剤耐性菌感染症患者からの分離菌株解析結果

(1) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症

届出月	年齢	区	症状	分離検体	菌種	カルバペネマーゼ遺伝子
4月	32	中	腸炎、菌血症、敗血症	血液、便	<i>Escherichia coli</i>	NDM型

※検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型:KPC,IMP,NDM,VIM,OXA-48,GES,KHM,SMB,IMI

4月に1件の届出があった。分離菌株は海外型カルバペネマーゼであるNDM型遺伝子をもつ*Escherichia coli*であった。

(2) バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

届出月	年齢	区	症状	分離検体	菌種	耐性遺伝子
5月	75	西	発熱、尿路感染症、骨盤内感染症	尿	<i>Enterococcus faecalis</i>	<i>vanB</i>
6月	60	中	発熱	膿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>

5月及び6月に各1件の届出があった。分離菌株の内訳は、*vanB*遺伝子を保有する*Enterococcus faecalis*及び*vanA*遺伝子を保有する*Enterococcus faecium*各1株であった。

5類感染症定点情報
(令和6年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		16	0.45		11	ヘルパンギーナ		98	4.46	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		433	12.38		12	流行性耳下腺炎		3	0.14	
3	RSウイルス感染症		81	3.70		13	急性出血性結膜炎		-	-	
4	咽頭結膜熱		77	3.50		14	流行性角結膜炎		40	5.01	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		264	12.00		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		491	22.33		16	無菌性髄膜炎		1	0.14	
7	水痘		22	1.00		17	マイコプラズマ肺炎		9	1.29	
8	手足口病		916	41.64		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		10	0.46		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		6	0.86	
10	突発性発しん		28	1.27							

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		18	2.25
2	性器ヘルペスウイルス感染症		5	0.63
3	尖圭コンジローマ		5	0.63
4	淋菌感染症		9	1.13
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		20	2.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和6年6月分)

第23週～第26週(6月3日～6月30日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	17	60	1,312	7,538
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	2
	16 細菌性赤痢	-	-	2	23
	17 腸管出血性大腸菌感染症	3	11	304	989
	18 腸チフス	-	-	5	20
	19 バラチフス	-	-	-	4
四類	20 E型肝炎	1	1	47	273
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	3	12	81
	23 エキノコックス症	-	-	2	6
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	-
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回歸熱	-	-	3	5
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	6
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	32 エムボックス	-	-	-	14
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	18	75
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	1	1
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	1
	40 つつが虫病	-	-	5	99
	41 デング熱	-	-	16	96
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	55	165
	46 日本脳炎	-	-	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	1	2
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	4	18
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	8	11
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	1	9	195	911
	62 レプトスピラ症	-	-	1	3
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	2	37	259
	65 ウイルス性肝炎	-	1	21	107
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	3	158	951
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	5	18
	68 急性脳炎	1	6	23	278
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	13
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	13	82
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	15	167	1,144
	72 後天性免疫不全症候群	2	2	95	489
	73 ジアルジア症	-	2	-	18
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	56	348
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	9	30
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	212	1,453
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	40	237
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	16	71	1,203	6,772
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	16	110
	81 破傷風	-	-	10	39
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	5	12	67
	84 百日咳	1	2	169	536
	85 風しん	-	-	-	3
	86 麻しん	-	-	-	24
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	3